



2024年9月に先行まちびらきしたうめきた2期区域

うめきたプロジェクト 大阪府大阪市

“大阪都心に残された最後の一等地” うめきたに生まれる新しいまち

一日の乗降客数約250万人を誇る西日本最大のターミナルエリアに位置する梅田貨物駅跡地約24haを、産学官連携により、国際競争力の高いまちへ生まれ変わらせる。うめきたエリアでは、大規模低未利用地を舞台に、そんな国家的プロジェクトが行われています。URは、プロジェクト全体のプロデューサーとして、2005年から長期的に関わってきました。土地区画整理事業を推進し、1期区域では公民連携の質の高い公共空間として土地区画整理事業で生み出された用地に、民間提案で創意工夫を凝らした大阪北口広場や歩道空間、中核施設（ナレッジキャピタル）を誘導。2期区域では、大阪駅前にふさわしい土地利用を支える道路や交通広場等の公共施設の整備改善を行い、イノベーション支援施設や文化体験施設等、新産業の創出拠点の形成を推進しました。あわせて、都心部における駅直結の比類なき大規模な「みどり」空間の中心となる都市公園（うめきた公園）を防災公園街区整備事業により整備、2024年9月に、うめきた公園を含めた2期区域の一部を先行まちびらきました。

都心部における広大な 「みどり」と「イノベーション」の融合拠点

うめきた2期区域では、開発条件を定め、民間のアイデアを取り入れた提案方式によって開発事業者募集を行い、国際競争力強化、防災性向上、環境負荷低減、近未来技術の社会実装等、大阪の魅力を高めるまちづくりを進めています。まちづくり

の目標は「みどり」と「イノベーション」の融合拠点。まち全体を包み込む約8haの「みどり」が新しい都市景観を創出し、世界の人々を惹きつけます。また、世界からの人材、技術を集積・交流させることで新たな国際競争力を獲得し世界をリードする「イノベーション」の拠点へ向けて、スマートシティ・サステナブルなまちの実現を目指しています。



多くの人で賑わううめきた公園

URは、土地区画整理事業と防災公園街区整備事業を行いながら、エリア内で行われる大阪市とJR西日本による鉄道の地下化・新駅設置や民間事業者による建物の建設等、同時並行で進む各種関連事業を調整し、エリア全体の円滑な進行を支援しています。



2023年春に開業したJR大阪駅うめきた地下口



虎ノ門二丁目地区 左:病院棟(虎の門病院) 右:業務棟(虎ノ門アルセアタワー) 東京メトロ日比谷線全線開業以来、56年ぶりの新駅となる虎ノ門ヒルズ駅 駅前広場

新橋・虎ノ門エリア 東京都港区 国際競争力強化に資する一大ビジネス拠点の形成

新橋・虎ノ門エリアは、都心部にありながら、区域内に小規模敷地や老朽化した建物が数多く存在することから、時間をかけて機能更新・高度利用化を進めています。URは、「新橋・虎ノ門地区まちづくりガイドライン」等、地方公共団体の計画策

定支援や、虎の門病院の建替え、「虎ノ門ヒルズ駅」の整備を含む市街地再開発事業の推進等、エリアマネジメント法人の事務局として地域活動に参画するなど多面的・長期継続的に関与し、一大ビジネス拠点の形成に寄与しています。



品川エリア航空写真

品川エリア 東京都港区 東京の玄関口となる国際交流拠点の実現

品川エリアは、羽田空港へのアクセス性に優れ、今後はリニア発着駅が整備されるなど、東京の玄関口としての機能が期待されています。URは3地区・約30haの土地区画整理事業を実施。鉄道車両基地再編により生み出された操車場跡地の

大規模な土地利用転換を図り、広域交通結節点を支える駅前広場の整備、周辺事業と連携したエリア内の歩行者ネットワークの強化により、これからの日本の成長をけん引する「国際交流拠点・品川」の実現を目指し、まちづくりを進めています。